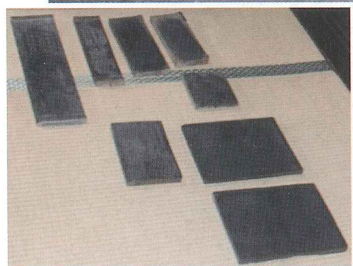


福相寺木造大黒天像及び大黒天信仰関係等版木並びに石造物



- 〔指定年月日〕平成二〇年三月二十六日
- 〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
- 〔名称〕福相寺木造大黒天像及び大黒天信仰関係等版木並びに石造物
- 〔点数〕一式
- 〔所有者等〕福相寺
- 〔所在地等〕堀ノ内三十四八―五八

有形民俗文化財（信仰）

福相寺木造大黒天像及び 大黒天信仰関係等版木並びに石造物

木造大黒天像 一軀
大黒天信仰関係等版木 二四点（三七面）
大黒天信仰関係石造物 七基
（髹題目願満大黒天碑一基・神使鼠像一对・幟立二組・石燈籠一对）

本大黒天像は、福相寺一六世日元が、大阪の佐藤某の家に伝教大師作として伝わっていた大黒天を譲り受け、福相寺に持ち帰り、祀ったものと伝えられる。江戸時代には「願満大黒天」と呼ばれ、その由来記を版行して参詣者に配るほど信仰を集めたという。

頭巾を頭にのせ、左肩に大袋を担ぎ、米俵の上に立つ本大黒天像は、室町時代から江戸時代初期にかけての彫刻にみられるおおづかみで、おおぶりの彫り口の特徴を持つ。

版木には先に記した大黒天の由来記「願満大古久天神来縁の記」のほか、駒込（文京区白山）にあった福相寺の境内を描いた多色刷りの団扇絵、護符などがある。団扇絵には現在も残っている石造物の鼠像や幟立も描かれている。護符の多くは大黒天の護符で、所在地部分を「堀ノ内」など現在地を示すよう埋め直されているものもあり、移転後も版木を使用していたことがわかる。

石造物は、寛政十一年（一七九九）に造立された髹題目願満大黒天碑を始め、大黒天の神使である鼠像、「大黒天」の大

幟を立てたと思われる幟立石柱、石燈籠である。特に、鼠像は鼠と米俵の彫刻が精緻で優れた作品であるとともに、鼠の彫像の石造物では国内でも古例に属するものとして重要な例品である。

福相寺は昭和一二年（一九三七）に現在地に移転した寺院だが、大黒天像、版木、石造物は福相寺の大黒天信仰の隆盛を示すものとして貴重である。これらが一括して伝えられていることで、大黒天像と版木・石造物とが互いの意義を強調しており、これらの価値は極めて大きい。

【文化財所在地】

